

## 山形県水素ビジョン(仮称)策定検討委員会(第1回)における各委員の主な御意見

## 《ビジョン全般》

- 山形県における水素社会について、わかりやすくビジュアルで示してもよいのでは。
- 豊富な再エネポテンシャルや酒田港、洋上風力のような山形県独自の要素を記載してもよいのでは。
- 他の計画と整合を図る必要がある。
- 水素需要の創出が非常に重要。

## 《取組みの方向性1：県民の水素に関する理解促進》

- 水素の有用性・安全性を広く周知する必要がある。
- 特に、小学生から大学生までの学生に理解してもらうことが重要。

## 《取組みの方向性2：県民生活に根差した水素の利活用推進》

- 県民が水素に触れ合い、身近に感じることが出来る機会をつくる必要がある。
- カーボンニュートラルの実現に向けて、燃料電池がポイントとなる。
- 熱利用やモビリティ分野での水素の利活用が重要。
- 水素ステーションの整備に併せ、FCトラックの導入を検討したい。
- 合成メタン・合成燃料の利活用のイメージを記載してほしい。

## 《取組みの方向性3：水素の導入拡大を通じた県内産業の振興》

- 水素サプライチェーンにおける「製造」「運搬」「供給」それぞれの事業領域において産業振興へつなげていく必要がある。
- 産学官金連携の取組みにおいて、「企業の技術を繋ぐ」表現を記載してほしい。

## 《取組みの方向性4：地域資源を活用した水素供給体制の整備促進》

- 酒田港や洋上風力など、本県の豊富な地域資源を活用した水素の利活用について記載すべき。
- 県が国の補助金などを活用しながら、積極的に実証事業に取り組むべき。
- 国内製造だけでは需要に対応できないため、酒田港を拠点とした海外からの水素の輸入も想定する必要がある。
- 水素ステーションの整備・運営においては、隣接県との連携が大事。
- 水素ステーションの整備に向け、手厚い県補助金を創設すべきでは。
- モビリティ分野での普及のためには水素ステーションの整備が必要。